

令和3年度
学校関係者評価報告書

令和3年11月25日(木)

学校法人 宮崎総合学院
宮崎情報ビジネス医療専門学校

令和3年度第1回「学校関係者評価委員会」報告について

宮崎情報ビジネス医療専門学校では、平成23年度より、教育内容や日々の学校運営に関する業務について点検し、更なる改善、向上を図るため、自己点検・評価に取り組み、平成24年6月（第1回）、平成25年7月（第2回）に、学校法人宮崎総合学院のホームページ上で公表いたしました。

更に、本年度は文部科学省の「職業実践専門課程」に係る公示に併せて、学校単体での「学校関係者評価委員会」を開催し、本校に関係の深い病院関連や企業関連の方々に、本校の教育活動や学校運営に関してご意見、提言等をいただき、今後の学校運営や評価の在り方について、より良い改善を図っていくことといたしました。

今回、令和2年度第1回「学校関係者評価委員会」を開催し、令和元年度に続き貴重なご意見、ご指摘を頂きました。ご意見・ご提言をいただいた皆様にもあらためて感謝申し上げます。

今回、令和3年度の評価結果を真摯に受け止め、今後とも、業界、地域、学生のニーズに応えられる学校運営を目指し、教職員一同努力して参る所存であります。

引き続き一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

令和3年11月

宮崎情報ビジネス医療専門学校

校長 花 盛 和 也

1. 「学校関係者評価」の実施方法について

今回の「学校関係者評価」は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に沿って実施した、「令和元年度自己点検・評価報告書」について、本校に関係の深い企業等 11 名の評価委員（委員一覧表）に評価していただいた。

評価委員からの意見は、本校で組織する自己点検・評価委員会委員長（校長）及び教職員が承り、その評価結果の内容等について要約の上、報告書として取りまとめた。

自己点検・評価報告書（令和2年度版）と併せてご覧頂きたい。

2. 学校関係者評価委員一覧表

評価委員 敬称略	会社（企業）名	役職名	任 期	備 考
川崎 友裕	一般社団法人 宮崎県情報産業協会	会長	R5. 3. 31	(株)MJC 社長 (欠席)
小田 真司	株式会社 クラフ	エンジニア	R5. 3. 31	
井上 雅博	株式会社 フェニックスシステム研究所	トラブル監査 委員会	R5. 3. 31	
鈴木 斎王	宮崎診療情報管理懇話会	会長	R5. 3. 31	宮崎大学医学部附属病院 副病院長
丸山 博史	社会医療法人同心会 古賀総合病院	事務部部长	R5. 3. 31	
丸山 こずえ	独立行政法人国立病院機構 都城医療センター	副部长	R5. 3. 31	
田辺 邦晃	株式会社坂下組	総務課長	R5. 3. 31	
阿波部 康志	株式会社 ニューウェルシティ宮崎	総支配人	R5. 3. 31	
下笠 敏徳	宮崎県幼稚園連合会	副会長	R5. 3. 31	学校法人三育学園 光が丘幼稚園 理事長 (欠席)
小森 春美	学校法人福原学園 野の花幼稚園	副園長	R5. 3. 31	
岩切 朝樹	株式会社デンサン	部長	R5. 3. 31	卒業生

3. 委員会次第（概 要）

(1) 開会

(2) 校長挨拶

省略

(3) 委員長選任

宮崎大学医学部附属病院 副病院長 鈴木齋王委員を委員長に選出した。

(4) 令和2年度 委員会議事録確認報告

省略

(5) 令和2年度 学校自己点検評価報告

教務部長より、各項目についての報告を行った。

(6) 討議・意見交換

各評価委員から、報告に対するご意見やご指導をいただいた。

（詳細は後記のとおり）

(7) 閉会

4. 討議・意見交換について

各評価委員から、前回ご指摘いただいた項目についてご意見やご指導をいただいた。

◇ 評価項目 1 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- ・教育理念について、ウェブサイトから分かりやすいアクセスで確認ができました。一般的な理念の他に“今年度の重大目標”を策定し、公表されており、貴校のスタッフの皆様のひたむきさ、熱心さが伝わってきた（田辺委員）

◇ 評価項目 2-6, 7 （シラバスの作成、学生への事前配布）

- ・シラバスが対外的に公表されているのは、素晴らしい実績であると考えます。以前、教育現場にいた経験から「先生方はシラバスの公表に難色を示すもの」というイメージがありましたので、貴校の教育に対する安心感の向上を後押しするものとする。（田辺委員）

◇ 評価項目 2-15 （企業・施設での現場実習）

- ・総合ビジネス系は、幅広い分野であることから実施が難しいということか。（阿波部委員）
⇒比較的余裕のある1年生の時期に設定をしても、希望の企業が分からない学生もいる。学校が指定をすると、思っていた企業と違ったというところで企業様にご迷惑をおかけすることにもなりかねず、実施が難しい（樋口委員）

◇ 評価項目 2-20 （他の高等教育機関との連携講座）

- ・コロナのために、実績がなかったということか。「子ども未来科と宮大・国際大教育学部、わくわく保育園」「情報システム科と宮大工学部」等、連携の可能性は多岐にわた

ると考える（田辺委員）

- ・内部の人が、外部の講義を聞けるような連携等があっても良いのではないかと思う。

（鈴木委員）

⇒一部、デジタルハリウッドの講義を教職員が聞くということも実施している。

（樋口委員）

⇒教職員だけでなく、学生が聞いたりするような場面が設けられても良い。

（鈴木委員）

◇ 評価項目 3-4 （学生が利用可能な参考図書、関連図書）

- ・評価が「2」となっているが、参考図書・関連図書がないということなのか。そういう訳ではないのだと思うが。（井上委員）

⇒業界雑誌などは、各教室に準備してあり各自で読んでおくという形である。保育系は、ある程度、絵本などを準備しているが、総合ビジネス科ではほとんどの用意がないというように学科によって、かなりばらつきがある。必要かと言われるとあった方が良いのだと思う。（樋口委員）

⇒学科ごとに、ばらつきのあるものは分けて評価をすると、内容が把握しやすくなるのではないか。（鈴木委員）

◇ 評価項目 3-5 （就職支援体制）

- ・就職支援センターの廃止に賛同する。その分、各科のスタッフの方々の負担が増えると思われるので、各科での体制の充実が望まれる（田辺委員）

◇ 評価項目 4-5 （外部への就職実績の公表）

- ・就職・資格取得実績もウェブサイトに分かりやすく公表されている。就職率は100%もしくは、それに近い数値かと思うので、そちらも大きくアピールされてはいかがか。

（田辺委員）

◇ 評価項目 5-7 （入学予定者に対する学習指導・支援等）

- ・職業キャリア教育冊子の回収は、何か意図があったものと考えてるが、配布したままでも良かったのでは（田辺委員）

◇ 評価項目 5-10 （キャリアサポート関連の有資格者）

- ・各校にいる必要はなく、法人内で配置され、学生が気楽に話をできるような環境が提供できるのであれば、それで十分なのではないか（井上委員）

⇒以前は、各校にキャリアカウンセラーがいたが、現在は法人本部の「こころの相談室」のみとなった。カウンセラーの先生が1人であり、4校分の担当をされるので、なかなか予約がとれない状況。本来は、各校に配置されるのが望ましいと思うため、「3」という評価とした。（樋口委員）

- ・「こころの相談室」の設置は、時代に即した手厚く素晴らしい体制である（田辺委員）

◇ 評価項目 5-15 （定期的な健康診断）

- ・学科ごとに健診内容を変えるというのは、考えが及ばなかった視点であり、どういった差をつけるのか気になる。（田辺委員）

◇ 評価項目 6-1 （ボランティア活動）

- ・ボランティアのカリキュラムの組み込みは、無理して取り組む必要はないのでは（田辺委員）

◇ 評価項目 7-5 （防災訓練）

- ・本来2回実施する必要のあるものが1回であったというのは、コロナ禍であったためということではよろしいか（小森委員）
⇒2月に2回目を予定していたが、どうしても密の状態になってしまう。
そのため時期を検討しているうちに年度が終わってしまったという状況である。
昨年、下笠委員より避難ルートの確認でも良いのではないかとのご意見を頂戴していた。今年度、コロナの影響により実施が難しかった場合には、机上での避難ルート確認で実施を検討している（樋口委員）
⇒避難ルートを確認したあとに、実際に歩かせると実際の環境や危険を把握することもできるので、良い（鈴木委員）
- ・防災訓練と防火訓練は、最低限2回は実施しないといけない。人が動いて確認をしていくことが大切。避難口を実際に見て歩くことでも十分である。（丸山博史委員）

◇ 評価項目 8-3, 6 （評価・改善）

- ・年度ごとに、今年はこれを改善するところがあるところクリアできていれば「4」の評価でも良いのではないかと。計画書のようなものがあると評価しやすい。（岩切委員）
- ・3-13で前回の助言を速やかに実行に移される等、十分機能しているように、見受けられるため「4」でもよろしいのでは（田辺委員）

◇各委員からのご意見

- ・令和2年度はそれほどではなかったのかもしれないが、コロナ禍の影響があったとするならば、それなりに下がる評価もあって当然であり、その影響に対し、どう対策をしたのかというのがあるべき。次年度以降、考えてみてほしい。（鈴木委員）
- ・全体的に「4」が多く、計画通りに運営がなされているのは、素晴らしいと思うが、毎年際立って注力した点、などのトピックがあると外部委員としてメリハリを感じる。（田辺委員）

- ・4段階評価となっているが、「4」の評価で良いのか「3」なのかというところが良く分からない。これがあれば「4」、これなら「3」といったような評価のラインが口頭だけでは、分かりにくい。また各項目で優先順位を決め、次回、改善する必要があるのかどうかを決める基準があってもいいのでは。今年はこれに注力したというのが分ると評価しやすい。評価が上がらなくても、改善の必要があまりないのであれば「1」の評価としても良いのでは。（小田委員）

⇒今回より、記載の仕方を変更している。過去に根拠となる事例をすべて記載したこともあるが、細かすぎて審議が終わらなかったこともある。そのため今回はこの記載方法となっているが、また次年度は別のパターンのものお示しして、違いをご覧いただきたい。「1」評価については、持ち帰り検討したい。（樋口委員）

⇒気になるところだけでも記載しておいてもらえると分かりやすいかもしれない。（鈴木委員）

- ・外部からの評価というものはあるのか。（丸山博史委員）

⇒宮崎総合学院での外部評価についても議論があがっている。宮崎ペットワールド専門学校では、動物看護師の国家試験の基準が必要であり、先行して取り組みがある。本グループでは、足並みを揃えて実施という風潮があるため、まだ本校での取り組みについては実施されていない。（樋口委員）

⇒今回、111項目あり94項目の85%以上が「4」であり、これ以上何を目指すかというときに、「2」の評価を「3」にあげるということだけでも十分であると思う。（丸山博史委員）

⇒外部評価は、確かに良いと思う。ただ、時間がかなり取られてしまうということもある。他校同士での、評価というのものもありかもしれない（鈴木委員）

- ・学生に目標を立てさせて、それを本人がどれだけ獲得したかということを確認していくことが大切であると思う。（鈴木委員）

以上の意見を頂き閉会した。

—以 上—